

第25回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョン——2010』のご案内
—— 生物農薬の展開と化学農薬との調和 ——

趣 旨：環境保全型農業の推進において生物農薬に期待が寄せられている。一方、生物農薬は健康や環境に対する負荷が小さいものの、対象が限定され遅効性で環境要因により効果が変動するなど使用上の工夫が求められている。生物農薬の特性を活かしつつ、化学農薬との調和を図る観点から現状と課題について討議し、今後の防除のあり方を展望する。

主 催：財団法人 報 農 会

協 賛：日本応用動物昆虫学会，日本植物病理学会，日本農薬学会

日 時：平成22年9月17日(金) 10:00~17:00

場 所：「北とびあ」つつじホール(東京都北区王子1-11-1)

TEL 03-5390-1100(会場への連絡は出来ません)

JR 京浜東北線・地下鉄南北線：王子駅下車，徒歩2分(下図参照)

開 会：10:00~10:10 挨拶 理事長 上路 雅子

講 演：10:10~10:50 生物農薬についての最近の開発・利用状況及び今後の展望
静岡大学農学部 西 東 力

10:50~11:30 生物農薬と化学農薬との調和
①天敵を利用したIPMプログラム
アリスライフサイエンス(株) 山 中 聡

11:30~12:10 ②水稻，園芸分野での体系使用とハイブリッド農薬の開発
クミアイ化学工業(株) 熊 倉 和 夫

13:20~14:00 農業生産現場での生物農薬の導入事例
①天敵線虫製剤の枝幹害虫防除場面における使用事例
(株)エス・ディー・エス バイオテック 田 辺 博 司

14:00~14:40 ②微生物農薬による省力病害防除技術(果菜類/施設栽培における事例)
出光興産(株) 尾 川 新一郎

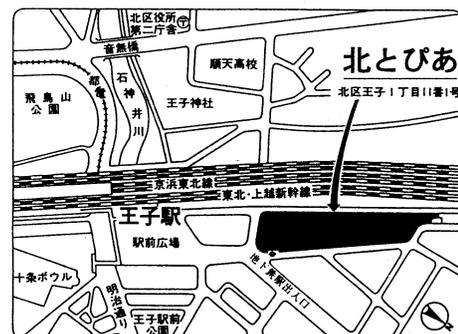
14:40~15:20 ③イチゴ栽培における生物農薬導入事例(天敵利用を中心に)
神奈川県農業技術センター 小 林 正 伸

15:40~16:45 総合討論

参加費：一般2,000円 学生1,000円

申込み：参加をご希望の方は下記連絡先までEメール
またはFAXで所属・連絡先と氏名をお知らせ
下さい。当日，参加費と引き替えにテキストを
お渡し致します。

連絡先：財団法人 報 農 会
事務局 正垣 優，渡辺 敦子
〒187-0011 東京都小平市鈴木町2-772
植物防疫資料館内
TEL/FAX 042-381-5455
E-mail: khono511@car.ocn.ne.jp



功績者表彰式のお知らせ

シンポジウム終了後、会場を16階に移して、植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式及び祝賀会を開催いたします。シンポジウム参加者は、無料で出席ができます。お時間の許す方は、是非ご出席の上、祝福を賜りたくご案内申し上げます。

開催日時 平成22年9月17日(金) 17:00～

開催場所 「北とぴあ」16階(天覧の間)

第25回功労賞受賞者(3名:五十音順)

稲生 稔(いのう みのる)

職歴 茨城県農業試験場, 同県改良普及課, 茨城県経済連

業績 ○イネシンガレセンチュウ, カメムシの発生生態及び防除法に関する研究
○コガネムシ類, 土壌センチュウの発生生態及び防除法に関する研究
○転作大豆を加害するカメムシ, 莢内害虫, 紫斑病の防除法に関する研究
○植物防疫に関する行政と普及・指導

高見澤 和人(たかみさわ よしと)

職歴 長野県病害虫防除所, 同県農業技術課, 農業改良普及所, (社)長野県植物防疫協会

業績 ○スジコガネ, アワノメイガの発生生態及び防除法に関する研究
○発生予察(普通作物, 果樹, 野菜)の施設の整備と調査, 防除指導
○水稻の共同防除組織の育成, 無人ヘリコプター技術の普及
○新農薬の適応性の検討・普及, 農薬の規制・適正使用の指導

岡本 康博(おかもと やすひろ)

職歴 岡山大学農業生物研究所, 岡山県農業試験場, 岡山県経済連

業績 ○イチゴ萎黄病の感染・発病機構, 発生生態及び防除法に関する研究
○イネえそモザイク病の発生生態及び防除法に関する研究
○ナス萎縮病, ハス条斑病の発生生態及び防除法に関する研究
○新農薬の適応性の検討・普及